

---

## デジタルパンク通信 第十七話

---

Q 制服でしょうか。私服でしょうか

A 私服です。

能登半島の小学校を訪ねました。とおりがかると、みな「おはようございます」「こんにちは」としっかりあいさつしてくれます。えらいね。勉強よりコミュニケーションだよ。

パソコンが並ぶ教室で、情報化の授業をみせてもらいました。4年生。今日のテーマは恐竜。みんなそれぞれインターネットで調べてる。1年生はどうしてるんですか？「1年生はパソコンじゃなくて、町にでかけて大人の話聞いて回ってます」。正しいですね。機械よりまず生身のコミュニケーションですね。でもどこか違和感がある。そうだ、みんな制服だからだ。みな明るく健やかなんだが、個性を削ぐ制服の画一性が響いてこないかと気にかかる。その町の役場で、女性職員の制服を廃止しようとしたら、女性側の抵抗にあったという。画一性に慣れてしまうと、個性を引き出す方向には踏み出せなくなる。

多様性はクリエイティブの源泉だ。違い、こそが創造力を生む。出るクイを伸ばすこと。打たれないほど出過ぎたクイをたくさん作ること。これが大切。例えば、私のいる研究所は、人種も出身も年齢もバラバラだ。赤ん坊だいた女学生が弁当くいながら授業きいたりしている。イヌを連れてくる人も多い。こうした多様な環境を保とうと努めている。

ボストンの自宅そばの小学校も無論みな私服だ。親の国籍も肌の色も所得もバラバラだ。そこから何か生まれてきそうな気配がする。その廊下に、最新型のマッキントッシュが積んである。寄付だ。その奥へ進むと、アンティークなアップル2が三台おいてある。図書室のおばさんが現役で使っている。うわー。それほしい。譲って。最新型と交換してもいい。もっと速くてカラーのスゴいやつ使えばいいじゃん。でも、おばさんは譲らない。「最新型は子供が使えばいいんだよ、アタシはこれで充分なのよ」。アメリカといえば、効率主義、機能主義、スピード主義だ。しかし、私はこれで充分なのよ主義も同居しているところがまたアメリカだ。価値観や考え方も多様なのだ。

運動不足のせいかな回りか広めの女性が天気予報を担当している。と思っ  
ていたら、お腹が日に日に大きくなってきた。まごうかたなき妊婦。肥満を隠す  
ために妊娠したのか。そんなことはあるまい。でもそろそろ臨月じゃないか。オ  
ンエア中に産気づきはしないだろうか。気になって毎日みている気がついた。  
これは視聴者の注意をひくテレビ側の作戦ではないか。それはいいのだが、  
日本だと、妊婦キャスターが前面に出てくることは少なく、照れくさくて、隠れた  
り隠したりするような気がする。アメリカの場合、いろんな人がいるので気にな  
らない。むしろ、多様な人、モノ、価値、文化が互いこうけいられ、同居する  
精神がアメリカを成立させているように思う。多様であること、がアメリカの定  
義だが、その一点でアメリカは強い。